国際交流基金日本語教育論集
第20号（2024年）
〔報告〕

オンライン多読ライブラリーを活用した多読の実践

中川愛理・東健太郎

1. はじめに

新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、世界中の日本語教育機関がオンライン授業に切り換えたことにともない、多読活動もオンライン化し、オンライン多読会を実施する動きが見られた[1]。本稿では、オンライン多読会や家庭での自学自習で利用できる多読用図書を集めたオンライン多読ライブラリーと、それを活用したオンライン多読会の実践について報告する。国際交流基金ケルン日本文化会館（以下、JF ケルン）では、2022年 5 月に多読をテーマとしたケルン日本語教師研修会2022春をハイブリッド形式で開催した。この研修会で、多読授業体験を行う際に、オンライン参加者の多読用図書として準備したのがオンライン多読ライブラリーである。本稿では、まず、オンライン多読ライブラリーについて紹介する。次に、2023年 4 月より開催している JF ケルンにおけるオンライン多読ライブラリーを活用したオンライン多読会の実践について報告し、教育現場におけるオンライン多読ライブラリーの活用方法について提案を行う。

2. オンライン多読ライブラリー

多読を実施するにあたって多読用図書はなくてはならないものである。対面での多読では、書店の平場での展示のように、様々な表紙が並んでいる多読用図書の中から学習者が読みたい本を選び、各々のペースで多読を行う。オンライン多読を実施する上で、できるだけ多くの多読用図書を準備できるかがハードルとなっている。纐纈・片山（2022）で、纐纈は米国ノートルダム大学のオンライン多読授業の使用教材として「大学図書館の電子書籍（「よむよむ文庫」「多読ブックス」）」と「オンライン素材（無料のよみもの、ビデオ、ウェブサイトなど）」を挙げており、片山は東京大学の多読授業（対面・オンライン）の使用教材として「NPO 多言語多読「にほんごたどく特設サイト」内の「無料の読みもの」（「KC よむよむ」「読み物いっぱい」等のリンクあり）」と「大学図書館の電子書籍（「よむよむ文庫」「多読ブックス」）」、「オンライン上の投稿サイトなど」を挙げている。これらのコンテンツは無料で利用できるものが多く、手軽に利用できることが魅力である。しかし、対面での多読のように、一箇所にまとめられて、レベル別、コンテンツ別にグループ分けされた多読用図書を、表紙を見ながら選ぶことはできない。JF ケルンでは、2022年 5 月に実施した日本語教師研修会2022春において、

オンライン参加者の多読授業体験のためにオンライン多読ライブラリー（以下、「オンライン多読ライブラリー」）を作成した。

2.1　「オンライン多読ライブラリー」の特徴

「オンライン多読ライブラリー」は、多読、多聴、多観のためのオンラインコンテンツを集めたウェブサイトである（図１）。JF ケルンがオンライン掲示板アプリの Padlet を利用して公開しており、リンク（https://padlet.com/kurse/tadoku_library）を知っていれば、誰でも利用することができる。多読用図書だけでなく、多読・多聴・多観用のオンラインコンテンツや多読用の参考資料などが利用できる。

図１　「オンライン多読ライブラリー」

2.2　「オンライン多読ライブラリー」のコンテンツ

「オンライン多読ライブラリー」は、「多読用図書」、「多読サイト」、「多読・多聴・多観用ウェブリソース」、「多読関連参考資料」の４つのコンテンツで構成されている。以下に各コンテンツの内容を紹介する。

2.2.1　多読用図書

多読用図書は、PDF 形式で掲載されており、パソコン、タブレット、スマートフォンでの閲覧が可能である。図書によっては朗読音源が付いているものもあり、多聴にも対応している。レベル別に、【A1, Level 0 - 1 】、【A2, Level 2 】、【A 2 B1, Level 3 】、【B1, Level 4 】、【B 2 ～, Level 5 】の５つのカテゴリーに分かれており、表紙またはタイトルを見ながら、本を選ぶことができる[(2)]。５つのカテゴリーの掲示板ごとに色分けされており、視覚的にレベルが判別しやすくなっている。多読用図書は356冊（2023年８月現在）で、レベル別に見ると、【A1, Level 0 - 1 】が141冊、【A2, Level 2 】が145冊、【A 2 B1, Level 3 】が55冊、【B1, Level 4 】が14冊、【B 2 ～, Level 5 】が１冊である。【B 2 ～, Level 5 】は１冊のみであるため、多聴用に64冊分

の朗読コンテンツを合わせて掲載している。多読用図書は、「にほんごたどく」[3]、「日本語学習読本」[4]、「たどくのひろば」[5]、「読み物いっぱい」[6]、「多読いしかわワクワク文庫」[7]、「KCよむよむ」[8]の6つの多読サイトにて全て無料で公開されているものであり、各サイトの管理者より掲載許可を得た上で「オンライン多読ライブラリー」に掲載している。

2.2.2　多読サイト

利用者が直接アクセスして多読用図書を探せるよう、2.2.1で紹介した6つの多読サイトに加えて、無料で公開されている7つの多読サイトを紹介している。今後、掲載許可が取れ次第、随時多読用図書に追加していく予定である。

2.2.3　多読・多聴・多観用ウェブリソース

日本語学習者の多読用に作成された多読用図書だけでなく、青空文庫や、やさしい日本語で書かれた学習者及び外国人対象のニュースサイトや情報サイトなどのウェブリソースを多読用のコンテンツとして掲載している。また、読むことが苦手な学習者もいることから、ポッドキャストやYouTube動画など、多聴と多観のウェブリソースを掲載した。1クリックで手軽にアクセスでき、パソコン、タブレット、スマートフォンで利用できることがウェブリソースの利点であると言える。

2.2.4　多読関連参考資料

多読をコースに取り入れることを検討している教師を対象として、多読を始めるにあたって参考となる書籍や発表資料、セミナー動画などを紹介している。

3.　オンライン多読会

2023年4月から月に1度、土曜日の午前（10：00～11：30）にオンライン多読会（以下、「多読会」）を実施した。「多読会」は、「オンライン多読ライブラリー」の普及、ドイツ国内の日本語学習者に多読の楽しさを知ってもらうことを目的に、時間さえ合えばドイツ国内のどこからでも気軽に参加できるよう、オンラインで実施した。また、本「多読会」はトライアル実施であり、実施予定期間は2023年4月～7月までの4か月間であった。目標は、参加者には自分のペースで多読・多聴・多観をしてもらい、その後に他の参加者とブックトークをしてもらうことで、「次、読んでみようかな」という気持ちに繋げることである。コロナ禍以降、これまで他機関でもオンライン多読活動が行われてきた。しかし、作田（2021：97）は、無料読み物へのアクセスの際に各サイトへのリンク集を示しても、多読に慣れていない学習者はどのサイトに行けばいいかわからないことを指摘しており、本「多読会」で使用した「オンライン多

読ライブラリー」のように多読用図書が一か所にまとめられた媒体を用いて実施された多読会は管見の限りまだない。

「多読会」の定員は目安として各回20名に設定したが、当日はキャンセルや欠席者が出ることも想定し、申込者は全員受け入れた。対象者は、作田（2022：18）のNPO多言語多読主催のオンライン日本語多読クラブに倣い、ひらがなが読め、簡単な会話ができる日本語学習者なら誰でも参加可能とした。申し込みにはMicrosoft Formsを用い、名前、メールアドレス、任意で日本語レベルを記載してもらった。

3.1　「多読会」開催日までの事前準備

広報は、翌月に行う「多読会」の開催の約1か月前から行い、JFケルンの広報媒体（ウェブサイト、SNS、ニュースレター、月間プログラム、館内掲示ポスター）での広報と、JFケルンが主催する日本語講座の受講者へのアナウンス、ドイツ語圏大学日本語教育研究会とドイツVHS日本語講師の会[9]のメーリングリストでも参加者を募った。また、2回目以降は「多読会」の最後に翌月の「多読会」の案内を行い、継続参加を呼びかけた。申し込みのあった学習者には登録完了メールを送り、「多読会」開催2日前には当日のスケジュールや「多読会」の参加にあたっての注意点、当日のZoomリンクを連絡した。

3.2　「多読会」の流れと進め方

「多読会」実施に当たり必要なものは、「オンライン多読ライブラリー」、多読記録シートである。多読記録シートは、読んだ本のタイトル、レベル、読んだ日、コメント、評価（★つまらない、★★ふつう、★★★おもしろい）を記録する欄を設けた。「多読会」で使用するパワーポイントは、参加者の中にはA1レベルの学習者もいることから日独併記とした。

「多読会」の所要時間は1時間30分に設定した。報告者が進行役となり、表1で示す流れに沿って運営を行った。

表1「多読会」の流れ

スケジュール	内容
9：50	Zoom開室
10：00〜10：10	①多読って何？多読のルール確認
10：10〜11：10	②ブレイクアウトルームで各自、多読・多聴・多観 →各自、多読記録シートに記入【本のタイトル、レベル、読んだ日、コメント、評価（★つまらない、★★ふつう、★★★おもしろい）】
11：10〜11：25	③ブックトーク
11：25〜11：30	④アンケート、次の多読会についてアナウンス

具体的には、①最初の10分で多読とは何か、多読の４つのルール、「オンライン多読ライブラリー」の使い方、多読記録シートの書き方を確認し、「多読会」で使用する Padlet のリンクを共有した。図２のとおり Padlet には、多読とは何か、多読の４つのルール、「オンライン多読ライブラリー」のリンク、多読記録シート、次回の「多読会」の申し込みリンクを入れ、「多読会」の時間以外にもこの Padlet があれば、一人で多読が行えるようにした。Padlet はドイツ語で表記し、A１レベルの学習者にもわかりやすいようにした。

図２　「多読会」Padlet

次に、②ブレイクアウトルーム機能を使用し、各ルームに参加者が一人ずつ入り、60分間、多読・多聴・多観の時間を設けた。その間、報告者はヘルプボタンが挙がったルームで質問対応をしたり、支援者として参加者のルームに入り、「本はどうですか。」「４つのルールは大丈夫ですか。」などの声掛けを行ったりした。また、多読記録シートは、学習者が自分の多読活動を振り返り、励みにしてもらうために、多読・多聴・多観後に各自記入するように促した。

その後、③一度、全員メインルームに戻り、次は小グループ（３人）に分かれて、15分程度のブックトークを行った。学習者のレベルに関係なく、ランダムにグループを作成した。ブックトークの時間には、今日何を読んだか、どうだったか等を日本語とドイツ語で自由に話してもらった。

最後に、④「多読会」についての簡単な感想の共有をし、アンケートと翌月の「多読会」についてのアナウンスをして終了とした。なお、報告者は基本的に日本語で「多読会」の進行を行った。

3.3　開催実績と各会の参加者数

2023年４月から７月まで、月に１度、土曜日の午前（10：00～11：30）に「多読会」を実施した。これまでに４回開催し、のべ75名が参加した。各回の申し込み人数、参加人数、出席率は表２に示すとおりである。全４回の出席率は64.1％であった。

表２　開催日と申し込み人数と参加人数

開催日	申し込み人数	参加人数	出席率
2023年４月８日（土）	35名	21名	60.0%
2023年５月20日（土）	30名	19名	63.3%
2023年６月17日（土）	24名	18名	75.0%
2023年７月８日（土）	28名	17名	60.7%

3.4　アンケート調査

参加者から「多読会」に関する評価や意見を聴取するため、毎回「多読会」終了後にアンケート調査を実施した。アンケートはMicrosoft Formsで作成し、質問文は日独併記とした。質問項目は、1.「多読会」について、2.「オンライン多読ライブラリー」について、3.自身の多読活動について、4.多読は日本語能力の向上に役に立つと思うか、の４つの部分から成っている。各質問項目と回答結果について、次項で詳しく説明する。

回答期間は、各「多読会」実施後の一週間とし、各「多読会」の終了時に参加者に回答を呼びかけ、さらに、「多読会」終了後に参加者に回答依頼のメールを送った。アンケートの回答者はのべ54名で回答率は72％であった。

3.4.1　「多読会」について

「多読会」に関しては満足度とその理由を問うた。満足度は５段階のリッカート尺度（５＝大変満足している、４＝まあまあ満足している、３＝どちらともいえない、２＝あまり満足していない、１＝全然満足していない）形式、理由は自由記述形式で質問した。本報告では、自由記述部分で得られた回答は、類似の回答をまとめて共通のカテゴリーごとに分類するにとどめた。

集計の結果、「多読会」の満足度は、52名（96.3%）が「大変満足している」「まあまあ満足している」と答えた。そのうち、①「多読会」の企画、②「多読会」の構成、③ブックトーク、この３点に関して肯定的な意見が多く得られた。以下、アンケートに記述されたコメントを紹介する[10]。

①「多読会」の企画について（19名）：

「家では結局、時間を作れないことが多いので、読む時間が決まっているのは良いことです。（報告者訳）」

「平日は勉強で精一杯で、日本語の本を読む時間があんまり無かったんです。多読会に通じて、本を読むことができ、大変満足でした。（原文ママ）」

普段の生活の中で日本語の本を読みたいと思っていても、仕事や学業などがあり、なかなか本を読む時間が取れない人が多く、月に１度、あらかじめ「多読会」が設定されていることは

参加者にとってプラスになっていることがわかる。

②「多読会」の構成について（17名）：

「読書と会話の時間が十分にあり、心地よい時間でした。(報告者訳)」

「本を読んで、その本について日本語で話す機会があります。日本語を読む練習になると同時に、会話の練習にもなります。(報告者訳)」

③ブックトークについて（6名）：

「リラックスした雰囲気で、プレッシャーなく読めました。その後、私とはレベルの違う人たちと話をするのも面白く、刺激になりました。(報告者訳)」

「このような本を無料で読むことができ、同時に日本語のレベルがはるかに高いであろう他の人たちと交流できる可能性があるのは素晴らしいことです。(報告者訳)」

「多読会」の構成に関しては読書をする時間と話す時間が十分にあり、また、本を読んでから、ブックトークの時間に他の参加者と話をすることが良い刺激になっていることがわかる。

しかし、2名（3.7%）「どちらともいえない」と回答した者がいた。その理由としては、「私の語学レベルは、他の人と交流するにはまだ不十分でした。ブックトークの時に、A1レベルはグループの中で自分一人だけでした。(報告者訳)」という、ブックトークの際のグループの日本語レベルに関する指摘があった。ブックトークの前に「日本語とドイツ語で話すように」と呼びかけてはいたが、参加者の中には日常の中で日本語を話す機会がなく、ブックトークの時間は日本語を話すチャンスだと捉え、できるだけ日本語で話をしようとする参加者が多くなった。しかし、このことがこの参加者には負担になってしまったようだ。ブックトークの際のグループメンバーの日本語レベルに関しては、他のアンケート回答者数名からも同様の意見があった。また、「初めての参加で、何を期待していいのかわかりませんでした。一人が選んだ物語を読み、もう一人が聞く。そして、私が物語を読み、もう一人が聞いて、自分の読書体験と物語について話す…と思っていました。(報告者訳)」という、自身が考えていた多読会と、実際の「多読会」が違うものであったという意見もあった。

3.4.2　「オンライン多読ライブラリー」について

「オンライン多読ライブラリー」についても満足度とその理由を問うた。満足度は3.4.1同様、5段階のリッカート尺度（5＝大変満足している、4＝まあまあ満足している、3＝どちらともいえない、2＝あまり満足していない、1＝全然満足していない）で回答してもらい、その理由を自由記述で答えてもらった。

集計の結果、「オンライン多読ライブラリー」の満足度は、51名（94.4%）が「大変満足している」「まあまあ満足している」と答えた。理由としては、①選択肢の多さ、②レベル別になっていること、この2点に関する肯定的な意見が多く得られた。

①選択肢の多さ（33名）：

「膨大な数のテキストに感動しました。(報告者訳)」

「良いレベリング、ふりがなや写真付き、十分な選択肢、Spotifyのポッドキャストまであります。(報告者訳)」

2023年８月現在、「オンライン多読ライブラリー」には356冊の多読用図書やポッドキャストが公開されている。やはり、選択肢の多さは魅力になっているようである。

②レベル別になっていること（８名）：

「レベル別に選べるし、無料で読めるので、とても助かります。(報告者訳)」

「ライブラリーには、様々なトピックのテキストが豊富にあります。しかも、テキストを見つけるのが簡単で、ページが明確に配置されています。(報告者訳)」

「オンライン多読ライブラリー」は、多読用図書がCEFRのレベルに基づいて整理されて掲載されていることから、本を選ぶ際にわかりやすいようだ。

しかし、３名（5.6％）「どちらともいえない」と回答した者がいた。その理由としては、１名が「オンライン多読ライブラリーの読み込みにとても時間がかかりました。(報告者訳)」というPadletの技術的な問題を指摘した。また、２名は「レベル５以上は選択肢が少ないです。読む時間が短いので、記事も提供すると良いと思います。(報告者訳)」「まだ比較的初級の学習者にはかなり効果的です。ただ、もう少し難易度を上げてほしいです。Ｂ２レベルの本を読んで、ほぼすべてを理解しました。読解の練習になったし、漢字の読み方もいくつか覚えましたが、個人的に読んだ他のテキストを読むと、日本語の文章を正しく理解するにはまだほど遠いことがわかります。だから、もっと上のレベルが欲しいです。(報告者訳)」という、「オンライン多読ライブラリー」のＢ２レベルの多読用図書が現在は１冊しかないため、より多くの読み物がほしい、という指摘であった。

3.4.3　自身の多読活動について

「今日、何冊ぐらい本を読んだか」という質問に対しては、92.6％にあたる50名が「１～５冊」と回答し、7.4％にあたる４名が「６～10冊」と回答した。ほとんどの参加者が60分という限られた時間の中で１～５冊の本を読んだようである。

3.4.4　多読は日本語能力の向上に役に立つと思うか

「多読は自身の日本語能力の向上に役立つと思うか」という質問に対して、50名（92.6％）が「そう思う」と回答した。しかし、３名（5.6％）は「どちらともいえない」、１名（1.9％）は「あまりそう思わない」と回答した。

3.5　インタビュー調査

「多読会」の参加者6名に協力を依頼し、承諾を得て個別にフォローアップインタビューを実施した（調査期間：2023年6月16日～6月29日）。インタビューにはZoomを利用し、使用言語は日本語で、1人20分～30分程度の半構造化インタビューを行った[11]。調査協力者は全員、JFケルンの日本語講座の受講生である。インタビューは調査協力者の同意を得て録画した。質問内容は、大きく1.多読について、2.「多読会」について、3.「オンライン多読ライブラリー」について、4.今後の多読活動についての4点であった。

調査協力者の概要を表3に示す。レベルは、インタビュー時（2023年6月時点）に調査協力者が参加していた日本語講座のレベルである。

表3　調査協力者のレベルと参加回数

協力者	A	B	C	D	E	F
レベル	B1	B1	B1	A2/B1	A2/B1	A2/B1
参加回数	4回	2回	1回	4回	4回	3回

3.5.1　多読について

多読については、「D.日本語を読むのに興味があるが、レベル的に普通の本や記事は読めない。多読の集まった本や記事は学生たちにとってすごく価値があります。」、「C.授業で「美術館めぐり」という言葉を習いました。多読に「自国めぐり」という言葉がありました。勉強した言葉がでてきて嬉しいです。」、「E.多読会の前は漢字が多く、怖いと思っていました。いつも読めませんでした。今も全部は読めないけど大丈夫だと思うようになりました。」という、多読に関する肯定的な意見が多く得られた。

3.5.2　「多読会」について

「多読会」については、アンケート結果でも明らかになったように、「多読会」の企画について肯定的な意見が多く得られた。「A.普通、時間がなくて本を読まないから、月に1回時間が決まっていて多読の本を読むのはいいです。」、「B.以前からオンライン多読ライブラリーがあることは知っていましたが、読む時間を取るのは難しかったです。日付が決まっていたら、参加しやすいです。」、「E.毎週40時間働いています。週に2回、日本語の授業があります。スポーツをしたいです。読む時間がありません。月に1回、申し込んで参加できるのは便利です。」という意見である。また、「C.ドレスデンに住んでいてケルンに行けないので、オンラインは良かったです。」という、オンラインでの開催を喜ぶ意見もあった。

「多読会」の中のブックトークの時間については、様々な意見があった。ブックトークの時間については「B.みんな知らない人だから、もっと長かったら大変。恥ずかしくなるかもし

れません。」という意見も出ており、現在の15分程度で十分だという意見が多かった。ただ、ブックトークの時間については４月、５月の「多読会」開催時には10分しか時間を取っておらず、アンケートで「他の参加者と本について話す時間がもっと欲しかったです。10分では短いと感じました。（報告者訳）」「本を読む時間はたくさんありましたが、本について話す時間はほとんどありませんでした。（報告者訳）」という意見も出ていた。そのため、６月の「多読会」開催時から５分延ばし、15分時間を取っていた。

グループの日本語レベルについては、「D. 他の人と話すのは価値がありますが、初心者はすごく恥ずかしいです。シャイで、何も話したくありません。それに、わかる単語は少ないことがありました。日本語が同じレベルの人と話すのはもっといいです。簡単だと思います。」、「A. 他の人と話すことはすごくいいです。私の読まない本について話を聞けるのがいいです。でも、他の参加者は違うレベルで、レベルが高い人が時々いて、話を聞くのは難しいです。」、「F. グループの中に上手な人がいます。すごいけど、私の日本語は素晴らしくありません。同じレベルのグループはもっといいです。プレッシャーになります。私は下手ですから。」と、グループ内にレベル差があることを否定的に捉えている参加者もいた一方で「E. 先月の多読会にフランス人がいました。日本語が上手でした。日本人じゃありません。でも、日本語が上手でした。たぶん私も、日本語が上手になれると思いました。」と述べている参加者もおり、グループ内にレベル差があることを良い刺激としている学習者もいた。グループのレベル差については、今後も検討の余地がある。

3.5.3　「オンライン多読ライブラリー」について

「オンライン多読ライブラリー」については、多読のマンガ版があればいいといった意見が得られた。また、近代文学や日本のドラマ、映画、動画などをまとめた「オンライン多読ライブラリー」のデジタル図書館版があればさらにいいという意見もあった。一方で、改善点もいくつか得られた。「B. Padlet のスクロールをたくさんする必要があります。まとめのサイトにイメージがないものがあります。それは、その本がどんな本かわからないから不便です。選ぶときに写真やイラストを参考にしています。」というものである。本を探す際のスクロールについては、Padlet の機能上仕方のない面もあるが、スクロールの一番上部分に、掲載してある多読用図書のリストを掲載するなどして、利用者がより使いやすくなるように配慮していきたい。

3.5.4　今後の多読活動について

今後の多読活動については、「D. これからも多読会を続けてほしいです。月１ではなく、月２などで。」、「B. 月に１度しかないのは残念です。月に何度も参加できるならもっといいで

す。」という、「多読会」の開催頻度を多くしてほしいという意見が多く得られた。

4. 「オンライン多読ライブラリー」の活用

前章では、「オンライン多読ライブラリー」を活用した「多読会」について詳述した。本章では、その他の活用方法について、JF ケルンと他の教育機関における実践事例や、日本語教師研修会2022春とオランダ日本語教師会勉強会において挙げられたアイデアをもとに紹介する。オンライン多読会以外にも、対面形式での多読用図書として、多読以外の教材として、ビブリオバトル等のイベント用の図書として、「オンライン多読ライブラリー」が様々な形で活用できる可能性がうかがえる。

4.1 多読用図書として

オンライン多読だけでなく、対面形式での多読においても多読用図書を準備するのは容易ではない。特に海外では、市販の多読用図書は日本から購入する必要があり、コストも時間もかかってしまう。「オンライン多読ライブラリー」を利用すれば、スマートフォンやタブレットなど、参加者のデバイスでの多読が可能である。「オンライン多読ライブラリー」の掲載図書は全てフリーで公開されているので、印刷して利用することもできる。また、多読の試験的導入時にもコストをかけずに、「まずはやってみる」ことが可能である。スマートフォンで読める気軽さから、毎回の授業のはじめの10分を「読書タイム」に設定して多読の機会を作っているという実践例も報告されている。

4.2 教材として

授業で扱ったトピックに関連する本を読解用教材として利用したり、宿題として家で読んでコメントを次の授業で共有するといった活動アイデアが教師研修会では見られた。朗読音源を使ってリスニング教材として利用したり、音読やシャドーイングを行ったりすることもできる。また、ドイツの日本語補習授業校からは、子どもたちの日本語レベルに合わせて本が選べることから、授業や家庭での読み物として利用しているといった実践例が報告されており、継承日本語教育での活用も期待される。

4.3 イベント用の図書として

教師研修会において、「オンライン多読ライブラリー」を紹介したところ、参加者より読書会やビブリオバトル、ブックトークなど、本に関連するイベントでの活用アイデアが挙げられた。初級や初中級レベルからでも参加できることがメリットとして考えられる。

5. おわりに

日本語で本を読みたいと思っても、日々の生活に追われ本を読む時間が取れない学習者は多い。また、環境上、なかなか日本語の本が手に入らない、もし手に入ったとしても、日本語レベルが足りず、読むことを諦める学習者も多い。「オンライン多読ライブラリー」、「多読会」は、そんな悩みを抱える学習者の読書活動を支える一助になるに違いない。本報告を通して、「オンライン多読ライブラリー」、オンライン多読ライブラリーを利用した多読会がドイツ、欧州のみならず、さらには世界中に広まることを願ってやまない。

〔注〕

(1) ノートルダム大学はコロナ禍において多読授業をオンライン化して開講していた（纐纈・片山 2022）。また、NPO 多言語多読は2020年11月より定期的に「オンライン日本語多読クラブ」を一般向けに無料で開催している。

(2) 「オンライン多読ライブラリー」のレベルは CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の尺度に合わせて設定している。

(3) ＜https://tadoku.org/japanese/＞（2023年 8 月 1 日）

(4) ＜https://nihongotokuhon.jimdofree.com/＞（2023年 8 月 1 日）

(5) ＜https://tadoku.info/＞（2023年 8 月 1 日）

(6) ＜http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/project/Yomimono/Yomimono-ippai/index.html＞（2023年 8 月 1 日）

(7) ＜https://www.dropbox.com/sh/nix2ge0htiw76m7/AABJmlgAltxFSYNYYyEgwwC8a?dl=0&fbclid=IwAR0125WqahFvo4fJhpEsScpsXIaIfJfiKmdgyzu2G98E5jBlt95U4miMEU4＞（2023年 8 月 1 日）

(8) ＜https://www.jpf.go.jp/j/kansai/clip/yomyom/＞（2023年 8 月 1 日）

(9) 「ドイツ VHS 日本語講師の会」とは、主にドイツの Volkshochschule（市民向けの生涯学習機関）で日本語教育に携わっている講師が情報交換などを行う会である。

(10) アンケート結果は、ドイツ語で回答があったものは報告者が翻訳したものを、日本語で回答があったものは原文ママで記載した。

(11) インタビュー内容は、読みやすさを重視するため、報告者により適宜言葉（主語や助詞）を補ったり、同じ言葉が繰り返されたところ、フィラーが入ったところは「なくても良い」と判断し、省略したりしている。

〔参考文献〕

作田奈苗（2021）「オンライン日本語多読の可能性：オンライン日本語多読授業の動向調査より」『聖学院大学総合研究所紀要』68、87-134

作田奈苗（2022）「NPO 多言語多読主催オンライン多読クラブ」高橋亘・粟野真紀子・作田奈苗・片山智子・纐纈憲子（著）『日本語多読（下）～新たな挑戦と資料集～』、17-22、webjapanese.com

纐纈憲子・片山智子（2022）「4 章　1 節 オンライン多読」高橋亘・粟野真紀子・作田奈苗・片山智子・纐纈憲子（著）『日本語多読（下）～新たな挑戦と資料集～』、 4 -17、webjapanese.com

■執筆者

中　川　愛　理　　ケルン日本文化会館日本語指導助手

東　　健太郎　　ケルン日本文化会館日本語上級専門家